

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 1 4	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
The effect of alcoholic beverage type on hyperuricemia in Japanese male office workers. 日本人男性事務職員におけるアルコール飲料タイプの高尿酸血症への影響	
執筆者	
Sugie T, Imatou T, Miyazaki M, Une H	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Epidemiol. 2005 Mar;15(2):41-7.	
キーワード	
アルコール飲料、高尿酸血症、疫学、断面研究	
要 旨	
<p>血漿中の尿酸は痛風の危険因子であり、その他にも糖尿病、高脂血症、高血圧、循環器疾患との関連が言われている。また、高尿酸血症が死亡率の上昇にも影響を及ぼすことが示唆されている。アルコール摂取が尿酸血症の危険因子であることが指摘されているが、アルコール飲料の種類と高尿酸血症の関係についてはよく調べられていない。他のアルコール飲料と比較し、相対的にプリン体を多く含むビールの摂取が高尿酸血症を引き起こしやすいという説もあるがその影響は十分に調べられていない。</p> <p>今回、筆者らはアルコール飲料の種類の高尿酸血症への影響を調べるために 715 人の日本人男性事務職員のデータを用いた断面研究を行った。男性職員からは摂取するアルコール飲料の種類と 1 日の摂取量などを含む生活習慣に対する質問を行ない、各人の血漿中の尿酸値を調べた。血漿中の尿酸値が 7.0 mg/dL 以上を高尿酸値とし、それ以下を正常とした。この結果、飲酒しない人と比較して飲酒習慣のある人で 1 日当りエタノール換算 25g 以下の摂取では高尿酸血症のオッズ比が 1.2、25・49g 摂取では 2.64、50g 以上の摂取では 2.89 となっており、アルコール摂取によって高尿酸血症が増加することが確認された。また、摂取するアルコール飲料の種類の影響であるが、清酒を飲む人と比較して高尿酸血症のオッズ比はビールでは 1.24、焼酎では 1.06 であり、摂取するアルコール飲料の種類による高尿酸血症への影響はないことが示唆された。</p>	